

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	神学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大学院(学部)図書室および大学院共同研究室を、院生会の要望も入れながら整備する。	→大学院(学部)図書室および大学院共同研究室の整備。	B	B	B	B	/
2. ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)の任用による教育研究支援体制を整備する。	→専門科目におけるTAの任用者数(2013年度までに1名以上)。特定プロジェクトへのRA任用者数(1名以上)。	C	C	C	C	/

☆

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	自治組織である「院生会」より例年5～6月に学修・研究環境改善に関する要望書が提出され、これをひとつの材料(資料)として環境改善へ向けての協議(研究科副委員長を通じて研究科委員会にて)がなされるという仕組みが確立されている。これにより履修制度などに加え、大学院(学部)図書室および大学院共同研究室などの施設整備にも、これまで一定の進捗をみている。要望書は2008年度以降、継続的に提出されており、2013年度にも提出が予定されている。
目標2	主だった進展はない。ティーチング・アシスタント(TA)の採用について、たびたび議論にはなっている。しかしながら、現段階においては学部ラーニング・アシスタント(LA)を優先して検討・整備している状況である。
備考	